

今日のキーワード『配当』ってどうやって決まるの？ ～『配当』①～

株式への投資と聞くと、株価の上昇、下落を思い浮かべる人が多いと思います。実は、長期投資の投資収益の観点では、『配当』からの収益も非常に重要です。また、『配当』に前向きな企業には、株価のパフォーマンスが良い企業も少なくありません。本マーケットキーワードでは、『配当』に焦点を当てたレポートをシリーズで発行します。『配当』を様々な角度からチェックしてみますので、資産形成にお役立て下さい。

ポイント1

『配当』って何？

企業の株主に対する利益配当

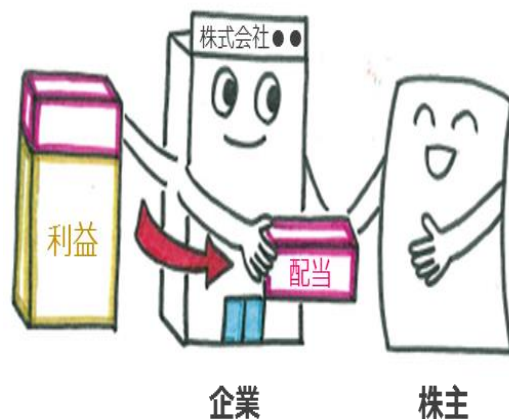
- 『配当』とは、企業の株主への利益の分配をいい、決算期末に株主名簿に載っている株主に対して保有する株式に比例して分配します。通常は決算時に分配されますが、中間配当、4半期配当を実施する企業もあります。特別な利益がある年や会社の記念の年には、特別配当、記念配当が行われることがあります。

ポイント2

『配当』ってどうやって決まるの？

企業が利益水準など総合的に判断して決定

- 企業は決算時の利益、剰余金、保有現金などと新年度の業績や設備投資、現金収支の見通しなどを分析した上で、株主に対する還元方針などを総合的に勘案して『配当』金額を決定します。剰余金の処分案として株主総会で承認を得た後、『配当』が実施されます。ただし、会社法の改正に伴い一定の条件をみたし、定款で定めれば取締役会の議決でも可能です。
- 『配当』を受け取るには決算期末に株主名簿に載る必要があります。株式の受渡しに3営業日を要するため、『配当』を受けられる権利がなくなる期末の2営業日前に配当落ちと言います。
- 配当性向は当決算期末（権利確定日）に当期純利益の内、配当金の支払いに向けた額の比率で株主還元の尺度です。また純利益の内、配当金と自社株買合計の支払いに向けた比率を総還元性向と言います。



今後の展開

超低金利が続く中『配当』への注目は高い

- 超低金利が続いており、日本の長期金利は当面ゼロ%近辺で推移すると見込まれます。2%程度の利回りがある『配当』の魅力は高まっています。株式投資にあたっては、企業業績やバリュエーションの分析に加えて、『配当』に注目して配当性向、株主還元方針、増配余地なども検討すると、効果的と見られます。

ここも チェック！

2017年8月 8日 『分散』投資って何を『分散』するの？

2017年8月 1日 『平均寿命』が最高更新、老後資金は大丈夫？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。